

灸道湖

CONTENTS

令和6(2024)年「新年のご挨拶」	2
教育研修部コラム“Komorebi”	3
神経・筋疾患研修会について	4
看護部から「人生会議（ACP：Advance Care Planning）」 と「認知症ケア」についてお話しします。	
・“認知症について理解を深めましょう”	6
・“もっと身近に ACP(人生会議)を”	7
「HAL® 医療用下肢タイプ」の導入について	8
新人紹介	9
地域医療連携室だより	9
外来診療表	10



病院屋上から撮影した日の出



令和6(2024)年「新年のご挨拶」

院長 古和 久典

新年あけましておめでとうございます。皆様には希望や期待を持たれて恙なく新年を迎えられたことと思います。今年の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

2023年を振り返りますと、10年に一度といわれた大雪は山陰両県の交通機関をも麻痺させ、少なからず皆さんの通勤に支障をきたしました。1月下旬には新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが「5類」へと引き下げが発表され、withコロナの診療体制へ待ったなしでの切り替えが求められました。3月に開催されたWBCでは、侍ジャパンの大活躍により世界一を取り戻し、藤井聡太さんが最年少6冠から始まり、瞬く間に8冠を達成したことで、明るい話題を提供してくれました。一方で、ロシア・ウクライナ間の和平交渉が進展せず長期化する中で、中東で新たな紛争が開始されたことは残念でなりません。そのような中で、2023新語・流行語大賞に選ばれた「アレ (A.R.E.)」(阪神優勝、38年ぶりの日本一)からは、指揮官からのチームスローガンの大切さを改めて学びました。

2024年は、十干の「甲」と十二支の「辰」が組み合わさった「甲辰(きのえたつ)」です。インターネットによりますと、甲は「甲乙丙〜癸」の最初であることから、物事の始まりととらえられ、辰は発芽した植物がしっかりとした形になる、勢いと大きな力、成功ととらえることができ、この二つが合わさる甲辰は、新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考え

られるそうです。

当院の診療の中心は、「呼吸器病センター」として結核を含めた呼吸器疾患全般の診療と、政策医療として神経難病や筋ジストロフィー、重症心身障がい等のセイフティネット分野の診療で、2次医療圏を超えて取り組んできました。治療法がないかあったとしても十分な満足とは言えない神経難病に対して、当院では短期集中入院リハビリテーションを行うことにより、日常生活動作(ADL)の改善が得られることの経験が蓄積してきました。また現在、保険診療は一部の疾患(※)に限られていますが、HAL[®]医療用下肢タイプを2023年10月より山陰地方で初めて当院に導入し、本年より本格稼働をしていきます。

これからも地域から頂きました信頼にお答えし、入院を必要としている患者さんへの診療に加えて、患者さんが安心して在宅生活を送ることができる専門的な在宅支援に力を注ぐ体制づくりを進め、地域から求められる医療を提供していきたいと考えています。

皆様方には、一層のご支援ご尽力をお願い申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(※) 脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー、HTLV-1関連脊髄症、遺伝性痙攣性対麻痺

"Komorebi"

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹



皆さま、あけましておめでとうございます。

なんだかんだで大変な日々はまだ続いてはいますが、2024年はこうしてやっています。当院の教育研修部は2009年4月に設立した医療教育研修室を発展させた部門として2011年11月に発足しました。そのコンセプトは…

「スタッフ教育に関しては院内外を問わず、コーディネーターでありたい。

みなさんの知識・技術向上のためのプロデューサーでありたい。」

というものです。我々が使っている"教育"という言葉の語源は孔子と孟子の時代まで遡ることができるようですが、現在の子育てや学校での教授活動などにこの言葉が使われるようになったのは明治時代以降とされています。英語の"education"を移植する際の翻訳語として使われるようになってから、イメージが出来上がったとのこと。その"education"の語源も諸説あるようですが、ラテン語の"educare (エデュカーレ)"が有力です。この"educare"というのは「内側にある能力を外に引き出す」という意味。したがって、そもそも"教育"というのは決して上から（外から）何かを押し付けて、"教育"の対象者に変化を促すことではないんですね。なるほどなるほど。となると「コーディネーター」とか「プロデューサー」とか、こんなコンセプトをつくった自分の考えは間違っていなかったんだなぁって改めて思ったりするわけでして。

こうして考えるとなんだかポカポカした存在

に教育研修部がなれるといいなぁと思ったりします。寒い日が続くと、太陽の温かさが恋しくなりますね。夏はあんなに暑くて疎んじていた太陽も冬になると恋しくなる。木々の葉が太陽の光を通して地面に織りなす美しい光の温かさにポカポカあったまるし、その光が創出するダンスのようなもの～木洩れ陽～に心が落ち着くのが感じます。寒くてもポカポカと光が差していて、そこにいけばあったまる、みたいな…。ちなみに"木洩れ陽"を一語で表現できる英単語はないんだそうです。"Sukiyaki"や"Kawaii"のように"Komorebi"も英単語として一般的になる日も近いそう。

ところで皆さま、「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」という疾患をご存知でしょうか？本誌を手にとられた患者さんの中でも治療中の方もいらっしゃることでしょう。喫煙と深く関係のある疾患であり、かつては「肺気腫」や「慢性気管支炎」などと呼んでいた疾患です。呼吸器疾患というと、気管支喘息や肺癌などは知名度が高く一般的に浸透していますが、実はこのCOPDという病名は認知度が今ひとつ。GOLD(Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease)日本委員会が2022年に行ったインターネット調査（http://www.gold-jac.jp/copd_facts_in_japan/copd_degree_of_recognition.html）によるとその認知度は何と34.6%しかないので…。我が国では1999年に日本呼吸器学会が「COPD診断と治療のためのガイドライン第1版」を作成し、この時に公式に病名が変更されています。途中で呼び名が変わったことが認知度の低さにつな

がっているのかもしれません。

厚生労働省が2023年5月31日付けで告示した「健康日本21（第三次）」を推進する上での基本方針内にはCOPDの発症予防、早期発見・治療介入、重症化予防など総合的に対策を講じることが必要と示されました。日本呼吸器学会ではこれらのCOPDに対する取り組みに日差しが降り注ぐことを期待し、Project for COPD Mortality REduction BY 2032 (COMORE-By2032、日本呼吸器学会COPD死亡率減少プロジェクト・通称 木洩れ陽2032)と命名し特設ページ (<https://www.jrs.or.jp/kenkou21/>)を開設しています。

前述のGOLD日本委員会のCOPD情報サイト (<http://www.gold-jac.jp>) に示されているCOPDの症状を下記に示します。特に40歳以上の方で喫煙歴のある方は要注意。

- ・階段の上り下りで息切れがする。
- ・咳や痰が出る。

- ・風邪が治りにくく、咳や痰が出る。
- ・喘鳴がある。呼吸のたびにゼーゼー、ヒューヒューがある。

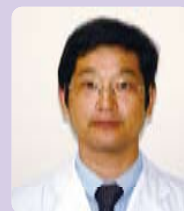
もしこのような症状があれば、当院呼吸器内科まで是非ご相談ください。そのしんどさに適切な薬物治療やケア、リハビリテーションという温かな日差しをあてられると自負しています。

閑話休題。2024年の教育研修部は初心に帰ることを目標に。そうポカポカしたコーディネーターでありプロデューサーでありたい。年頭にそんなことを考えています。そして皆さまにとっても良き1年になりますように。心からお祈りしております。



神経・筋疾患研修会について

臨床研究部長 足立 芳樹



令和5年10月6日に当院にて、国立病院機構神経・筋疾患政策医療ネットワーク協議会 中国・四国ブロック神経・筋疾患研修会を開催しました。平成20年頃から開催されている研修会で、中国・四国ブロックの主に神経難病や筋ジス患者さんの医療や療養を担っている病院が持ち回りで担当しています。当院は平成25年に初めて担当をさせていただき、今回が2回目になります。当初は令和2年が当院の担当でしたが、この年は新型コロナ感染が拡大した時期だったため行うことが出来ず、今年に変更させていただきました。昨年、一昨年はオンラインでの開催でしたが、今年は現地参加の研修会を4年ぶ

りに行うことが出来ました。以前は、2泊3日のプログラムでしたが、新型コロナの影響がまだ残っている関係で飲食を伴う情報交換会も出来ず、1日だけの研修会にしました。受講は、神経筋難病に係る全ての職種が対象で、主に国立病院機構関連の医療機関からの参加になりますが、地域の医療機関や医療福祉関連の行政機関にも、ご案内をさせていただきました。受講者で多い職種は、看護、リハビリ、医師になります。今回、1日フルの参加者は約50人で約30人が院外からの参加でした。1コマだけの参加もOKとしていましたので、最大80人程度の受講者数になり、多くの方にご参加いただきました。

当日のプログラムを掲載します。はじめに、当院院長の古和久典先生から医療従事者にも多い片頭痛の原因や最新の予防薬について話していただきました。次に島根大学総合理工学研究科の伊藤史人先生から先生が開発された視線入力システムについてのお話がありました。コミュニケーション手段を失っていた重心や筋ジスの患者さんが、新しい視線入力システムなどの機器、プログラムを使うことにより、その方の世界が広がって、社会の中で活躍をしておられる実例をご提示いただき、大変感動的でした。午後からは、東京都立神経病院看護師長の村上未来先生に難病看護師の活動やラダーについてのお話をしていただき、同じ神経難病看護、医療に携わっている私達にとって大変勉強になりました。次に、当院呼吸器内科医長・教育研修部長の門脇徹先生に神経筋疾患における非侵襲的呼吸療法についての講演をしていただきました。脳神経内科などの医療スタッフにとって、苦手ながら避けて通ることが出来ない呼吸不全関連の機器について、ハイフロー・セラピーも含め最新の治療について分かりやすく話していただきました。最後に鳥取医療センター統括診療部長の土居充先生より、パーキンソン病のチーム医療についてご講演をいただきました。パーキンソン病センターを開設をされ積極的にリハビリを行っておられること、多職種の連携についても、詳しくお話をいただき、大変勉強になりました。



令和5年度 神経・筋疾患研修会プログラム	
日時: 令和5年10月6日(金) 9:30~16:10 場所: NHO 松江医療センター3 階大会議室 対象: 神経筋難病に関わる全ての職種	
9:00~	受付
9:30~	開会の挨拶 NHO 松江医療センター 古和 久典 院長
9:45~	講演① 知っていると安心! 神経難病医療従事者のための頭痛の知識 NHO 松江医療センター 古和 久典 院長
10:45~	講演② 重度障がい者のための視線入力システム 島根大学総合理工学部 助教 伊藤 史人 先生
11:45~	昼休憩
13:00~	講演③ 神経病院における難病看護師の活動 東京都立神経病院 看護師長 村上 未来 先生
14:00~	講演④ 神経筋疾患における非侵襲的呼吸療法 NHO 松江医療センター 呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹 先生
15:00~	講演⑤ パーキンソン病のチーム医療 NHO 鳥取医療センター 統括診療部長 土居 充 先生
16:00~	閉会の挨拶 NHO 松江医療センター 貴目 志保 看護部長
※演題は変更となる場合があります。	
 松江医療センター マスコットキャラクター 「松丸くん」	

今回の研修会は一日だけの開催になりましたが、一堂に集まって最新の医療、看護情報を勉強することができました。また、マスク越しではありましたが、対面で、多施設の医療従事者が情報の交換を行うことが出来、実りの多い研修会になりました。院内でも院外でもこのような機会を今後も増やしていくことができればと思います。



看護部から「人生会議(ACP: Advance Care

“認知症について理解を深めましょう”

看護部長 貫目 志保



地域の皆さま新年あけましておめでとうございます。平素より当院への受診や入院等に際しご理解を賜りまして大変感謝申し上げます。本年も、皆さまが一日も早く快復されますように職員一同、利他の心にて診療・看護に携わってまいります。

去る令和5年10月20日(金)、古和久朋先生(神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 脳機能・精神障害分野 教授)をお招きし、認知症スキルアップ研修会を開催しました。地域医療関係者43名、当院職員27名が参加しました。大人数の研修会は3年ぶりであり、“対面の方がオンラインで聴講するよりもわかり易くて勉強になった”と声が聞かれました。講演会前には、認知症患者さんの見る景色を実際に見てみようという事で、バーチャルリアリティー体験(VR)コーナーも開催しました。前年度、認知症ケア委員会メンバーでVRを体験し、患者さんの視点に立った時に何を感じ何を思ったかを話し合いました。“患者さんはこんな景色を見ているんだ”とその思いを実感した上で、現れる様々な症状の理解がその後のケアに役立ったというスタッフの声から、今回は地域医療関係者にも体験して頂きました。

古和久朋先生は、日本における認知症治療者のトップリーダーであり、最近執筆された著書はベストセラーになっています。特に、認知症患者さんの運転免許証の返納についてのお話は、高齢の親を持つ者としても身につまされるものがありました。無理に免許返納を迫るのではなく、高齢者の自尊心を尊重しながら丁寧に診察、説明されておられるお話が伺え、大変感銘を受けました。参加者の多くが古和久朋先生のお話を同様に感じたと思います。その他に、レビー小体型認知症の病態や診断プロセスなど、認知症を専門にされている先生ならではの具体例もお伺いすることができました。

最後に令和5年12月20日から保険適応されたアルツハイマー病治療薬「レカネマブ」の情報も教えて

いただきました。脳神経細胞の再生はできないが、この薬はアルツハイマー病の進行を緩徐にする(治験データでは約3割の悪化防止)目的があり、とにかく“早く見つけて早く治療を開始する”ことが最大の肝だそうです。当院に診察で来院される方やご家族の方々へ、認知症のことが気になったり、異常に思われることがあれば当院には専門医

の診察がご
いますのでお
気軽にご相談
ください。お
待ちしており
ます。

2023年度 認知症ケア スキルアップ研修会

皆様、皆様におかれましては、ご多忙の中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。
「認知症」は、高齢者の生活の質を大きく低下させる原因の一つであり、早期発見・早期診断・早期治療が重要です。
本研修会は、認知症ケアの専門家と連携し、認知症ケアのスキルアップを図ることを目的として開催いたします。

日時 令和5年10月20日(金) 14:30~

場所 国立病院機構松江医療センター 3階大会議室
松江府松江市上乃木5-31

VR体験 14:30~15:00
[VR体験方法の紹介] 佐友ファーマ(株)
VR体験会 小体型認知症の病態をVRで体験いただけます

特別講演 15:00~16:00
座長 医療法人青葉会 松江青葉病院 院長 妹尾 晴夫 先生
「**レビー小体型認知症の
早期診断と適切な治療(仮)**」
講師 神戸大学大学院保健学研究科 リハビリテーション科学領域
脳機能・精神障害分野 教授 古和 久朋 先生

ご参加、ご聴講は無料ですが、会場費がかかります。当日の参加人数を超過いたしますので
お申し込みください。参加費は会場に到着した時点で受付係よりお支払いとなります。

共催：国立病院機構松江医療センター / 佐友ファーマ株式会社

講演会ポスター



バーチャルリアリティー体験コーナー

Planning)」と「認知症ケア」についてお話します。

“もっと身近にACP(人生会議)を” ～地域の方との交流を通して～

老人看護専門看護師 山根 裕子



昨年11月30日は「いい看取り・看取られの日」、人生会議の日でした。皆様、『人生会議』はされたでしょうか？

私は人生会議の日に先駆け、10月28日、出雲市の川跡コミュニティセンターのお祭り（第44回川跡地区総合文化祭）に参加させていただき、出雲市の老人看護専門看護師や訪問看護師の方と一緒に『人生会議』について生活の場で市民の方への啓発活動を行いました。この活動は昨年度から出雲市の助成を受けて開始し、ショッピングセンターで『人生会議』啓発パンフレットの配布やアンケートの実施、ACP とは何か？についてミニ講義を行うなどの活動を行っていました。今年度は、生活の場で『人生会議』について「より多くの人に知ってもらい、身近なものと感じてもらいたい！」との思いから、コミュニティセンターの方や出雲市職員の方にご協力いただき、お祭り会場での啓発活動を行うことができました。今回は、パンフレット配布やアンケートだけでなく、楽しみながら『人生会議』について知ってもらうことができるように、参加者の方に人生会議川柳を作成してもらったり、あらかじめ作成した人生会議川柳に投票をしてもらいました。会場では多くの方が『人生会議』とは何か？と興味をもって足を止め、質問や相談もして下さいました。また、大人だけでなく、子供達も興味をもって参加してくれて、「いつまでも おともだちと なかよくね」という可愛い人生会議川柳を一生懸命考えて書いてくれた子もいました。漫画で描かれた人生会議パンフレットを見て、「おじいちゃんとおばあちゃんにあげるね」と笑顔で言ってくれる子もいました。今回の活動を通し、『ACP・人生会議』を浸透させるには、特別な場を設けるのではなく、いかに生活の場で慣れ親しんでもらえるかがとても重要なのだと改めて感じることができました。今後も、別のコミュニティセンターやお寺の協力を得て、市民の方への啓発活動を実施する予定です。私たちの活動で、より多くの方が『人生会議』について知り、考えてもらうきっかけとなればと願っています！

11月30日に『人生会議』できなかった皆様へ、1年のスタートである今月、『人生会議』をしてみませんか♪



出雲市職員の方と一緒に写真撮影
(左から4番目が筆者)



アンケートや川柳の投票をする
地域の方の様子

「HAL® 医療用下肢タイプ」の導入について

理学療法主任 森岡 真一



松江医療センターリハビリテーション科では令和5年10月より、山陰地方では初めて「HAL® 医療用下肢タイプ」を導入しました。

HAL® (Hybrid Assistive Limb®) は、身体機能を改善することができる世界初のサイボーグ型ロボットです。「HAL® 医療用下肢タイプ」は、脳や神経、筋肉の機能低下で身体を思うように動かせなくなった患者さんの歩行の改善を目的にしており、下半身を中心とした身体機能の改善・治療を行う世界初のロボット治療機器として注目されています。

2013年に欧州で医療機器の認証を取得し、日本においては、2015年に8つの神経・筋難病疾患（脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー）を対象とする医療機器として承認され、2016年から公的医療保険を使った治療が開始されています。

効果としては、体を動かそうとした際に体表にもれ出てくる微弱な生体電位信号を皮膚に貼ったセンサーで検出し、意思に従った動作を実現します。脳からの信号にもとづいた運動を繰り返し行うことができるため、脳神経系の繋がりが調整され、神経の機能が改善・再生が促進されます。結果として、歩きやすくなるのを感じることで歩行障害の進行を防ぐ効果があるとされています。

松江医療センターでは5名の専属スタッフで、実践的な研修を令和5年9月から始め、10月より実際の患者さんの治療を開始しています。11月の時点で、3名の患者さんを治療しています。治療を受けた患者さんの感想としては、「足が軽くなって歩きやすい」「自分の歩きで苦手なところがわかりやすい」といった意見が聞かれました。患者さんとしても、歩きやすさを実感することや、効果がわかりやすいと感じておられるようです。

近年では多くの研究でも歩行能力の改善が報告されており、今後の展開が期待される分野でもあります、適応が難しい患者さんもおられますので、当院に一度御相談いただければと思います。

神経難病の特徴として進行性の疾患で、徐々に身体の機能が低下してくることがあります。効果的な治療法も確立されていない分野ですが、このような治療方法で患者さんの選択肢が広がる可能性も実感しています。今後は多くの患者さんに貢献できるように病院としても取り組んで行く予定です。



新 人 紹 介



1 階病棟看護師 森安 麻友

私は令和5年4月より松江医療センターに入職し、1階病棟で看護師として働いています。1階病棟は筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症といった神経難病の患者さんが入院されており、長期療養生活を送ってられます。

入職当初は慣れない看護技術や会話でのコミュニケーションをとることが難しい患者さんとの関わりで不安や緊張でいっぱいでした。しかし徐々に患者さんそれぞれのコミュニケーション方法である文字盤やクローズドクエスチョンを積み重ねて意思をくみ取ることで、患者さんのニーズをとらえた看護が実践できるようになってきていると思います。また看護技術では先輩方の指導のもと、初めて行う技術はゆっくり見守ってくださり、わからないことや足りない部分は丁寧に明確に教えていただき日々多くのことを実践の中で学ぶことができています。患者さんは自分で自由に体を動かすことができない方が多く、自分たちの関わりすべてが患者さんに影響するため、できる限り苦しさや不快な思いを軽減したいという思いで日々患者さんと関わっています。

まだまだ未熟な部分が多く不安に思うことや悩むこともあります。先輩方の支えや患者さんからの「頑張れ」というメッセージを受け取り、日々自分自身成長できていることに感謝しながら働いています。今後も患者さんの安全・安楽が守れるよう日々の経験を大切にして、研修や自己学習での学びを活かしながら成長していけるよう努力していきたいと思っています。

地域医療連携室だより

～地域医療連携交流会を行いました～



医療社会事業専門員 松本 昌広

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス発生以降、開催できずにいた地域医療連携交流会を令和5年10月12日に地域の先生方にご出席を頂き行いました（令和元年の前回開催以来、4年ぶり）。こういった交流会だったのかご紹介させていただきます。

交流会では島根県医師会会長 森本紀彦先生、松江市医師会会長 細田眞司先生から松江医療センターへのお言葉を賜りました。

その後、当院 古和久典院長から当院の近況をご報告し、HAL[®] 医療用下肢タイプの利用開始、頭部MRI共同利用など脳神経内科のご紹介をしました。続けて、新任医師の挨拶として脳神経内科 来海壮志医師からご挨拶、ボツリヌス療法外来の開設のご案内をしております。新任医師の挨拶に続けて、呼吸器内科のご紹介を岩本信一医師から、小児科のご紹介を久保田智香医師からしております。

交流会に先立っての肺疾患懇話会では呼吸器内科の門脇徹医師より「呼吸器の薬について」と題して講演を行いました。

以上、交流会の概要でした。ご参加いただいた先生方ありがとうございました。本年も病診連携を通して地域医療へ貢献してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



外 来 診 療 表

お気軽にご相談下さい

令和6年1月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	専 門 領 域
呼吸器内科	岩 本(初)	西 川(初)	木 村(初)	門 脇(初)	池 田(初)	【呼吸器内科】 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 岩本 信一 西川恵美子 坪内 佑介	【副院長、統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
	西 川	小 林	岩 本		木 村		
循環器内科		門 脇	池 田	坪 内	小 林		
脳神経内科 (予約優先)	中 島 (完全予約制)	古 和	深 田	足 立	交 替 制	【循環器内科】 生馬 勲	循環器一般
	来 海	下 山		中 野 細 田			
呼吸器外科	目 次		目 次		目 次	【脳神経内科】 中島 健二 古和 久典 足立 芳樹 細田 義人 下山 良二 深田 育代 中野 俊也 来海 壮志	【名誉院長】脳神経内科 (完全予約制) 【院長】脳神経内科 【臨床研究部長】脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科
消化器内科	法 正						
小児科	久保田 (初診) (午後のみ) (予約)	久保田 (午前のみ) (予約)		久保田 (午前のみ) 前 垣 (第2木曜のみ) (予約)		【呼吸器外科】 目次 裕之	呼吸器外科・一般外科
	予防接種	(予約)					
麻酔科	腰痛外来		西 村 (予約)			【小児科】 久保田智香 前垣 義弘	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
特 殊	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)	【麻酔科】 西村友紀子	麻酔科領域
外 来	息切れ外来		呼吸器内科 池田(予約)				
	喘息 アレルギー外来					【消化器内科】 法正 恵子	消化器内科領域
外 来	咳嗽外来						
	禁煙外来				呼吸器内科 担当医(予約)	診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30 独立行政法人 松江医療センター 国立病院機構 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 地域医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 地域医療連携室FAX (0852) 24-7661	
	アスベスト外来	(予約)	(予約)	(予約)			
外 来	もの忘れ外来		深 田			Matsue Medical Center	
	ボツリヌス療法外来	(予約)					
その他	セカンド オピニオン外来	(予 約)	(予 約)	(予 約)	(予 約)	(予 約)	

特 殊 外 来	肺 がん 検 診	診 療 日：毎週月～金曜日 15：00～17：00（要予約） 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。 料金5,500円
	睡 眠 時 無 呼 吸 外 来	診 療 日：毎週木曜日 14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息 切 れ 外 来	診 療 日：毎週火曜日 13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘 息 アレルギー外来	診 療 日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢 性 咳 嗽 外 来	診 療 日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：3週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。
	禁 煙 外 来	診 療 日：毎週木曜日 10：00～12：00（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診 療 日：毎週火・水・木曜日 8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	もの忘れ外来	診 療 日：毎週水曜日 9：00～12：00 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	ボツリヌス療法外来	診 療 日：毎週月曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：痙攣(筋肉のつばり)に対して、筋肉の緊張をやわらげる薬剤(ボツリヌス毒素)を注射して痙攣を軽減させる治療を行います。
	小 児 科 発 達 専 門 外 来	診 療 日：毎週月曜日 13：00～15：00（初診のみ）、毎週火・木曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
外 来	腰 痛 外 来	診 療 日：毎週水曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。
	セカンド オピニオン外来	診 療 日：（完全予約制）紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科（筋ジス）の専門医（医長）が担当いたします。